

ペプチドを一貫製造

ジュピターバイオサイエンス



マイ・ダイ
ング・コ
ン・ラ
グ・タ
ン・カ
ア・ジ
タ・ラ
エ・ク
ネ・レ
チ
マ
ナ
氏

ジュピターバイオサイエンスリミテッドは、グローバル市場での総合バイオサイエンスメーカーを目指した取り組みを進めている。とりわけグラムスケールからトンスケールにいたるペプチド合成や、アミノ酸骨格を有する医薬中間体の供給を得意としており、ペプチドにおいては原料から最終製品まで自社プラントで供給できる新しいタイプの一貫製造メーカーとして顧客ニーズに対応していく方針。二〇〇五年には米国にUSFDA基準のAPI工場を建設、また昨年には日本に一〇〇%出資子会社を設立するなど、急速にグローバル市場での基盤強化を推進しており、さらに早ければ二〇〇七年内にシンガポールに臨床試験センターを設置する計画。同社は一九八五年にムン

液相・固相法の両方可能

イ市近郊に設立、一九八七年からAPIの製造を開始、一九九八年には保護アミノ酸試薬に参入した。圧倒的に低廉なコストで製品供給が可能な中国との単純な競合を避け、容易に模倣できないジペプチドおよびトリペプチドの合成事業を本格化させてきた。

ここに至り世界的にペプチド合成の研究開発が盛んになっているが、インドで取り組んでいるのは同社のみ。二〇〇五年に液相法による十八アミノ酸残基の合成に成功、さらに昨年は固相法による三十一アミノ酸残基の商品化にも成功しており、液相・固相の両方が可能な世界唯一のユニークな地位を構築しているのが特徴。

技術面では、アミノ酸の光学活性性体であるD体あるいはL体のみを取り出す自前の技術を開発。また、たんぱく質の分解を要求する顧客に対しても、すでに技術確立済み。同社には百五十名を数える技術者、さらに姉妹会社であるシユベンジーンテックリミテッドには百七十名の技術者を擁し、日夜合成を行っている。

年内、シンガポールに臨床施設

ハイテラバード周辺にcGMPに準拠した五工場やR&Dセンターを持つが、現在さらに二つ目のR&Dセンターを建設中。反応器も、前臨床段階のキログラム単位のオーダーにも対応可能な五十リットル相反応器や、一回の反応で平均百八十キログラムの製品が生産可能な三千リットルのGL液相反応器などまで幅広く持ち、遠心分離機や真空乾燥機、熱風乾燥機も備えている。

既存の工場・設備の強化に加え、海外での事業拡大も推進中だ。二〇〇五年には米アリゾナ州バルチモアにUSFDA基準の工場を設置。ペプチド合成、ペプチド薬の臨床およびジェネリック薬の製造を手掛けているほか、オーロピンドファーマ社を買収するなど基盤を大きく拡充しつつある。日本にも昨年、ジュピターバイオサイエンスジャパンを設立。日本の製薬会社からの案件取得を目指す考え。さらに東南アジアのハブとして存在感を増しているシンガポールに臨床センターを建設する計画も推進中だ。

■ジュピターバイオサイエンス (449-1176231 50800、e-mail: jupit@bio@mbr.nifty.com) [日本語可]

化工日 2007.1.24